

審 議 会 会 議 録 要 旨

会 議 名 称 第 10 回伊那市総合計画審議会
日 時 平成 30 年 11 月 22 日(木) 午後 1 時 30 分 から 2 時 35 分 まで
場 所 伊那市役所 501・502 会議室
出 席 者 委員 19 名(欠席者 9 名)
建設部長、事務局

○協議事項

- (1)前期基本計画第 6 章及び前期土地利用計画について(確認)
- (2)全体まとめ

○主な意見・質疑

(1) 前期基本計画第 6 章及び前期土地利用計画について (確認)

(異議なし)

(2) 全体まとめ

(会長)

延べ 10 回にわたり審議をお願いしてきたところであるが、今回が最後であるので、各委員から一言ずつ、本審議会の感想や今後の 10 年間にに向けた思い、所感などをお話いただきたい。

(委員)

これまでも総合計画というものがあることは承知していたが、今回委員として委嘱され、改めて内容をじっくりと読んだところである。今後において重要なことは、基本計画を実践していくことであると考え。また、計画の内容を多くの市民に知っていただくことが大切である。冊子にした後、公民館や公共施設にも置いていただくことが望ましいと思う。

(委員)

この審議会は、今後 10 年の伊那市のあり方や取り組むべき課題を話し合う大変重要な会であるという認識である。そのような審議会に委員として参加することができ、大きな喜びを感じたところであり、真摯に向き合ってきた。協議内容は多岐にわたり、また難しい課題も多く、全てを計画どおりに進めることは、困難を伴う場面もあると思うが、行政に携わる方々に強い意志を持って取り組んでいただきたいと考える。私自身も注意深く見守っていきたい。先日、猛暑対策として、市内全ての小中学校、保育園へ空調機を設置することが市議会でも決まり、予算を確保したという話を聞いた。このことは、本審議会でも議論があり、計画へ反映するとした内容であるので、早速実行に移していただいたことに感謝申し上げたい。本日をもって審議会は終了するわけであるが、各委員の多様な意見を聞くことを含め、自分にとっては全てが面白く、この会議に出席することを毎回楽しみにしていた。これで終わるのかと思うと、ほっとすると同時に一抹の寂しさも感じている。委員の中には県外出身の方もいて、頑張っている姿をみると、地元の間人ももっと頑張らなければならないと感じたところである。

(委員)

10回の会議を通じて、5年後、10年後を見据えた長期ビジョンの重要性を感じた。一方で、長谷地区には7つの区があるが、そのうちの2つは存続すら危うく、地区の役員のことや農地をどのように守っていくかという問題があり、5年後をどうするかというより、来年をどうするかという状況があることも事実である。60～80代の世代は、地域を守ろうと頑張っているが、まわりを見渡すと後に続く後継者がいないということが現実である。勤務形態の変化や定年延長により、長谷地区の状況はますます厳しくなるのではないかと危惧している。

(委員)

これまで長年伊那市で暮らしてきたが、今回のように10年後の伊那市、将来像について、真剣に考えることがなかった。最初は難しい会議だと圧倒されてしまうこともあったが、それぞれの分野で活躍されている皆さんの様々な意見を聞き、共感したり、考えさせられたり、大変良い勉強になった。貴重な機会をいただいたと思っている。

(委員)

今後10年間の社会情勢の中で新たな課題も出てくるため、計画どおりにはいかない部分もある。新たな課題に向き合い、計画を見直していく必要もあると思うので、注視していきたい。

(委員)

言葉としてまとめることの難しさを感じた。どのような言葉でまとめていけばよいのかという部分で自分自身も迷いがあり、具体的な発言につながらなかった。10年後、福祉の分野にも自動運転やロボットの開発など情報技術の進展により、様々な変化があると思うが、地域の助け合いや人の関わりの部分と上手く共存して生活できるようになれば良いと感じた。

(委員)

様々な分野において、皆さんの意見を聞くことができたことは、非常に貴重で有意義な審議会に参加させていただいたことに感謝している。一番印象に残っているのは、高齢化や少子化、言わば縮んでいく社会へ覚悟を持って直面していかなければならないという深刻さを痛感したところである。

(委員)

細かな意見に対しても、丁寧に対応いただいた事務局に感謝申し上げる。この計画は、今後10年の伊那市の方向を示す最上位の計画である。伊那市では、すでにPDCAが徹底されているため大丈夫であると思うが、この計画を生かすためには、実施計画の中でその時々課題を捉え、いかに政策に反映していくかということが重要である。伊那市では国や県の政策を先取りして、すでに様々な施策を展開してきているため、今後に期待する。市民が本当に良かったと実感できるような政策をこの計画に基づき、実行していただきたい。

(委員)

様々な分野において、また、一寸先も見えないような状況の中で、10年の長期ビジョンを立案することは容易ではなく、想像力を要す大変な作業であったと思うが、各委員からの的確な意見が出され、内容に磨きをかけていくことができたのではないかと感じている。時代が流動的で

あり、全てが計画どおりとはいかないと思うので、この内容を骨子として、柔軟に対応していく必要がある。伊那市は過疎対策や新しい技術を政策に取り入れ具現化している先進的な地域であり、今後の展開に非常に期待している。委員の皆さんの意見も大変参考になった。貴重な経験をさせていただいたことにお礼申し上げます。

(委員)

各委員から忌憚のない意見が出され、それを的確に反映していただけたと思う。今後の展開に期待する。人を育てるという活動を通じて、引き続き協力していきたい。

(委員)

過去にいくつかの計画策定に携わったことがあり、最初から意見を言っておかないと後から変えることは難しくなるという経験から、いろいろと申し上げたが、ご容赦いただきたい。今から30年ほど前、旧高遠町でも15年計画というものを策定したことがあり、若者部会に参加させていただいた。町の将来を皆で考え、それをまとめて提出し、計画へ反映されたということがあった。当時は女性の参加者も多く、自分たちの意見が計画に載るということで、計画策定後も責任を持って関わっていくことができたのではないかと思っている。この場には、若い方や女性の委員が少ないと感じる。難しいことであると思うが、総合計画の法的なしぼりが無くなったという背景もあるので、次回は多くの若者が参加でき、なおかつ女性の意見が反映されるような計画の策定について工夫をされたいと思う。

(委員)

審議会を通じて大事にしていきたいと思ったことを2点申し上げます。1つは、まさに総合計画ということで、6つの章(基本目標)によって「創造と循環」というテーマに迫るものが出来てきたのではないかと感じている。一昨日、市内で情報教育の公開授業があり、ドローンを使って1ヵ月間定点観測した画像から土地利用の変化や地域のことを学習したり、地域の伝統的な民話をデジタル化して発信していこうとしたり、また、プログラミングの学習であったり、大変画期的な内容であった。講演会の中で、こうした取組の基盤となっているのは、伊那市の新産業技術推進ビジョンであり、バランスの良いビジョンに支えられているという説明があったが、同感である。今回の総合計画も、6つの基本目標それぞれが大事なことであり、お互いに支え合っていくものであると感じた。もう一つ、2年前にノーベル賞を受賞した大隅良典さんは「すぐに役に立つ研究ばかりしていると、社会がダメになる」というコメントをされているが、今回はそうでない基盤がある。物事を振り返りながら、大局的に立脚して全体の流れを見る視点と自分の足元を見る視点の両方が重要であると、そんなことを思ったところである。

(委員)

伊那市の市域はたいへん広く、それぞれの地域で特徴のある活動をしている。それぞれ課題もあると思うが、各地域がバランスよく発展してほしいとこの審議会を通じて感じたところである。計画の内容は多岐にわたるものであり、何かに突出するのではなく、全体に調和しながら、柔軟にバランスよく伊那市が発展してほしいと思う。経験豊かな委員の皆さんの様々な意見を聞くことができ、私自身も勉強させていただくことができた。

(委員)

今回この審議会に参加させていただき、とても良かったと感じている。まだまだ未熟で、どこま

でお力になれたのかという面もあるが、参加する度に自分自身の中で新しい学びがあり、参加するのが楽しみな審議会であった。これまでの人生で、こんなに伊那市のことについて考えたことがなかったので、私自身の将来においても、何かきっかけとなる年であったと感じている。ここで学んだことを生かし、志を持って、自分自身で考えて行動していきたい。

(委員)

この場に参加させていただき感謝申し上げます。これまで言えなかったことが3つほどある。一つは、協働という言葉がたくさん出てきたが、実際、市民と行政の協働関係の構築はまだまできていないと感じる。地域協議会も、協働の場としての位置づけであるが、まだまだうまく進んでいない。提案として、10年後の総合計画の策定時は、原案をつくる段階から市民との協働の中でつくっていくことができればよいと思ったところである。これまでの市民と行政の関係ではなく、お互いに協働していく社会となることを望む。2つ目は、ソーシャルフォレストリー都市のことである。50年の森林ビジョンを掲げ、ソーシャルフォレストリー都市になると宣言しているので、全ての政策をソーシャルフォレストリー都市と関連付け、市の職員も市民も一挙一動がどうすれば森林につながるのかということ意識し、考えていくことが重要であり、それがソーシャルフォレストリー都市の実現につながると思う。この会の中でそのことについて発言した際に、あくまでも政策の中の一つとして位置づけているという説明であったと思うが、50年の森林ビジョンが全ての政策の根幹となるような位置づけであってほしいと願う。3つ目は自治組織についてであるが、今後10年間、現状の体制で自治組織や消防団を維持していくことは、社会情勢もあり難しいと思っている。ただし、自治組織が不要という考えではなく、河川清掃は地域のコミュニティを育むことができ、とても良いことであるし、住民が自分たちの暮らす地域のことを自分たちで考えることは望ましい姿であると思う。自治組織は市役所の下請け機関ではないので、真の住民自治というものを構築していかなければ、人口減少の問題にも対応できず、移住・定住も促進できないのではないかという問題意識が自分の中にある。ただいま申し上げたことを実現できるように市民の立場でお役に立つことができればよいと思っている。

(委員)

この審議会で議論していた内容が、即座に市議会でも取り上げられ、実現したこともあり、感謝している。今年の秋、友人を北沢峠に案内したことがあった。中央アルプスや北アルプス立山には外国人が多数訪れているが、南アルプスは外国人観光客が少ないと感じた。パンフレット、周知が不十分でもったいないと思う。力を入れて取り組んでいる観光分野であるので、今後に期待する。

(委員)

私事であるが、伊那に移住してちょうど20年の節目に自分の会社や業界以外の幅広い分野において、伊那市のことを知る機会をいただけたことに感謝している。事務局には我々の意見を柔軟にくみ取っていただき、対応いただいたと思っているが、議論のあったキャッチフレーズの部分については、市民みんなでつくっていくべきものであり、その部分を市の職員に考えてもらうというのは酷な話であったと思う。逆に、その部分さえ市民のほうできちんとまとめていくことができれば、そこから計画を形つくっていくという部分は行政の方の得意分野なのではないかと思ったところである。10年後は、市民と行政の協働の中で、このミッションを進めていくことができるとよいと感じた。次期計画を策定する際には、市民と協働により原案をつくっていく機会や場を設けていただくことを希望する。

(委員)

審議会の中では、主として教育・文化の分野について意見を述べさせていただいた。「教育は100年の計である」といわれるが、現在のように少子高齢化が急速に進む状況の中で、人材の育成が、地域にとって喫緊の課題である。理念を実践する上で、現場の意見をどれだけ吸い上げることができるかということが大切で、トップダウンよりもボトムアップが重要であると考えている。四季の変化を体験できる豊かな伊那市の自然の中で、これまで受け継がれてきた伝統と文化に立脚し、世界から注目されるような「伊那市教育」というものが、これまで以上に実践され、伊那市に生まれ育ったことを誇りに思うような市民が一人でも多く育つことを期待する。私自身も地域に協力していく中で、今後を見守っていきたい。

(事務局)

本日欠席の委員からも感想・所感として提出があったため、概要のみ報告申し上げます。

1つ目として、現計画の達成状況の評価が十分ではないという点について、反省を踏まえた立案の重要性について指摘をいただいた。また、2つ目として、人口減少を踏まえた施策立案の重要性やコミュニティの維持についての議論の必要性について意見をいただいた。3つ目として、リニア開通後の未来像が描ききれなかったという反省と、新幹線が開通した地域の事例に基づき、何ができるかという視点での議論が必要という意見をいただいた。4つ目として、施策の優先順位の明確化、PDCAによる進行管理など、計画管理の専門部署の必要性について提案をいただいた。5つ目として、住民参加や民間企業との連携が重要、また広域的かつ重層的な連携も必要であるという意見をいただいた。

(会長)

その他、委員の皆さんから、また事務局で特になければ、私からお礼のあいさつを申し上げます。

5月22日の第1回会議から約6ヶ月間にわたり、熱心に議論をいただき、次期総合計画の答申をまとめることができました。この審議会では、今後10年間の市の施策の基本となる新しい計画を審議いただくということで、市政全般にわたる幅広い分野について検討をいただいたところである。伊那市の各界の皆様に参加いただいた審議会であったと思うが、関係団体から推薦された委員からは、それぞれの知見から、核心をついた意見をいただくことができ、また、公募委員の方からも熱い思いを寄せていただくことができました。「未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市」という将来像の部分については、本審議会で燃えるような熱い議論を重ねてきたなかで、このように決定していただいたところである。総合計画は策定して終わりではなく、ここからがスタートである。それぞれの立場で総合計画の実現に向け、しっかり取り組んでいただくことを願います。至らない会長であったと思うが、支援をいただき感謝申し上げます。委員の皆さんのご健勝とご活躍、また伊那市の益々の発展を祈念し、お礼のあいさつとさせていただきます。

以上